

令和 4 年度 泉が丘小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるように、確かな学力と豊かな心、健やかな体を持ち、これからの社会を力強く生き抜くことができる力をもった、たくましい児童を育成する。

- ・ 進んで学び、基礎・基本をしっかり身につける子 （しっかり学ぶ 泉っ子）
- ・ 学びをもとに考え、問題解決ができる子 （よりよく生かす 泉っ子）
- ・ 自分の生き方を考え、誠実で思いやりがある子 （なかよく生きる 泉っ子）
- ・ 健康や安全に気をつけ、元気に生活できる子 （元気でがんばる 泉っ子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童一人一人が、皆とともに生き生きと輝く学校」を目指す。

- ・ 児童が夢と希望を持ち、明るく活気にあふれる学校
- ・ 気持ちのよい環境で、温かい心の触れ合いに溢れ、仲間とともに仲良く学べる学校
- ・ 家庭・地域と連携した教育活動を推進し、信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）一人一人を大切に、全人教育を目指す学校 〔一人一人の児童を大切にしよう〕

学校教育のすべての領域と機能を通じて、一人一人の児童について知・徳・体の調和のとれた成長を促すとともに、個人的資質及び公民的資質の伸長を図り、教育目標の具現に努める。

（２）和と連帯を基調とした教育を進め、家庭・地域に信頼される学校

〔地域や保護者との信頼関係を築こう〕

学校・学年・学級経営の一貫性を図り、調和と統一のある教育の実現に努め、地域の信頼と要請に応え、公教育の使命を果たすように努める。

（３）これからの社会を力強く生き抜くために必要となる資質や能力をしっかりと育成する学校

〔日々の授業に力を尽くそう〕

すべての教科領域で、「基礎的・基本的な知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を通じた質の高い教育の充実に努める。

（４）児童の思いを豊かにする学校

〔子供が通いたくなる学級・学校をつくろう〕

豊かな感性を育て、互いに高め合える学級集団の育成を推進し、いじめ・不登校・集団不適応など、児童指導上の課題解決に努める。

（５）創意ある「社会に開かれた教育課程」の編成と特色ある学校

〔地域とともに子供たちの未来を考えよう〕

伝統ある校風を基盤に、児童・地域の実態や思いを踏まえた教育を推進するとともに、子供たちが未来社会を切り拓くために必要な資質や能力とは何かを地域や社会と共有し創造的・計画的に連携を進める。小中一貫教育の推進にも積極的に取り組む。

（６）教職員が自ら学び生き生きと勤務する学校

〔自ら学び生き生きと働こう〕

教職員としての自覚と使命感を持って、一人一人が絶えず研究と修養に努めるとともに、教師自身の生活の質を改善し、生き生きと働けるようにする。

〔泉が丘地域学校園教育ビジョン〕

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成 ～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～

泉が丘中・今泉小・泉が丘小の３校が連携・一貫して「学び・共に行動し・鍛える」教育実践に取り組むことにより、３校共通の学校経営の重点である「児童生徒の人間関係構築力」の育成を図り、相互に関わり合いながら「共に学ぶこと」「共に行動すること」「共に生きること」について考えさせることにより、各校における教育課程実践の充実・深化を図る。

4 教育課程編成の方針

- (1) 学校教育目標達成のために設定された学校経営の理念及び学校経営の方針、地域学校園の教育ビジョン、今年度の重点目標、今年度の努力点や具体策を踏まえ、全教育課程に意図的・計画的・系統的にその具現化を図るため、教科等横断的な視点に立って編成する。
- (2) 児童の学校生活の場として設定している、朝の活動、授業時間（各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間＜泉の時間＞、特別活動）、休み時間（業間、昼休みを含む）、給食の時間、清掃の時間を基本的な枠組みとして教育課程を編成し、各教育活動相互の関連とその配置のバランスを図り、時数を確保する。
- (3) 年間的な枠組みとしての2学期制をもとに、教育内容の設定と授業・教育活動時間相互の有機的な関連、及び効果的な教育活動の規模等について、計画的かつ重点化が図られ、柔軟性をもちながら機能的であり、教育活動全体として一貫性を確保しながら調和のとれた実施計画を作成することにより、学校教育目標の達成を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】グローバルな社会に向き合い郷土愛を醸成する教育の推進

- ① 学習指導の充実（学力向上）を図ることを最優先と位置づけ、新学習指導要領の趣旨を理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善の推進を大きな柱として取り組む。
 - ・ 「令和の日本型学校教育」構想のもと ICT を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業改善に取り組む。
- ② 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
 - ・ 学校経営方針、具体策、本年度の重点目標への取組の様子などを今まで以上に保護者、地域に広く周知していく。新たな課題解決に向けた授業や学校行事等の取組を学校 HP や学校だより、学年だよりなどで積極的に紹介し、保護者・地域住民の理解と協力を促す。
- ③ 泉が丘地域学校園の小中一貫教育、地域の教育資源の積極的な活用により「学校力」のさらなる向上を図る。
 - ・ 地域の教育力を生かした教育活動（地域人材や教育資源の活用等）を積極的に展開し、「地域とともにある学校づくり」を着実に推進する。
- ④ 勤務時間を意識した働き方改革を推進し、校内の業務の適正化・明確化・効率化を図る。
 - ・ 日常業務の精選や行事・日課の更なる見直し、ICT 活用による労力軽減を推進し、限られた時間の中で児童に接する時間を確保して適切な指導を行えるようにする。
 - ・ 働き方への教職員の意識改善を進め、自己の充実を図る。

【学習指導】確かな学力の育成

○ 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を積極的、具体的に進める。

- ① 教師が、児童に身に付けさせたい力を明確に認識しておくとともに、授業の目標（めあて・ねらい）を児童自身が確認できるようにし、学習計画をもとにした学習の見通しをもたせた上で、各教科等の「見方・考え方」を働かせて課題にじっくり取り組めるよう、発問や学習活動を工夫する。
- ② 思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。
- ③ 本時の目標や評価規準に基づいたまとめや振り返りを確実に行うことにより、児童に「何を学んだのか」を実感させるとともに、振り返りに対する具体的な言葉かけを行い、学習意欲や主体的に学習する態度等を養う。
- ④ 高学年での教科担任制を積極的に推進し、効率的な授業研究を行うとともに専門性の高い授業展開を目指す。

○ 個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業を推進する。

- ① 情報活用能力等の学習の基盤となる基礎的基本的な資質・能力等を土台とし、ICT 機器を効果的に活用しながら、一人一人の興味・関心・能力に応じた学習活動や学習課題に取り組む学びを充実させるとともに、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら課題に取り組む態度を養う。
- ② プログラミング学習を生かした論理的な思考の育成を図るとともに、進んで表現しようとする態度を養う。

【児童生徒指導】 豊かな心を育む教育の推進

- ① 心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりなどを育成するとともに、これからの社会において特に必要となる、多様な他者とともに協働しながら目標に向かって挑戦するたくましさ等を養う。
- ② いじめをはじめとする問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に向けて、教職員が組織的に対応できる体制作りを推進する。
- ③ 複雑化する問題へ対処するために家庭との協力はもとより、地域社会・関係機関とも連携を強化した取組の充実を図る。

【健康（体力・保健・食・安全）】 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進

- ① 新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症の予防について正しく理解し、適切な行動をとるなど、健康で安全な生活を送れるよう指導する。
- ② 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成するために、自らの健康面や体力面のよさや課題を把握し、自分に応じためあてを設定し、健康（体力・保健・食・安全）について進んで活動に取り組むことができる児童の育成を目指す。
- ③ 運動に親しもうとする態度や能力のより一層の育成を目指し、児童の発達段階や実態に応じた運動量を確保した授業（特に投力向上に向けた運動）、休み時間を活用した運動イベントの企画等の工夫（運動委員会主催等）により運動機会を創出することで、運動の日常化を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 意欲を高め、見通しをもって学習できるめあてを提示する。 ② 実社会や実生活に関連し、児童が興味や関心をもてるように教材・教具を工夫する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会等の機会を充実し、指導力の向上に努める。 ④ 各教科の特性に応じた言語活動の充実を図り、学び合い活動を推進することを通して、思考力・判断力・表現力等の育成に努めていく。 ⑤ 自主学習ノートや一人一台端末、<u>「家庭学習の手引き（泉が丘地域学校園版）」の活用による家庭学習の習慣作りに努める。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 94.6%で、目標を大きく上回った。教師の肯定的割合は昨年度とほぼ変わらなかったが、保護者の肯定的回答は 92.3%となり、昨年度を上回った。 【次年度の方針】 教職員の端末に対する意識が向上し、端末を使った授業も多く実践された。家庭学習でも積極的に活用し、情報モラル教育等、使い方の指導も合わせて行っていく。 家庭学習の取組には個人差があるので、興味関心のもてる課題を出すなど工夫をしながら、習慣化を図っていく。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 道徳的価値を実生活の中から捉えられるような道徳の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。 ② 係活動や当番活動など、周囲のために活動する場を積極的に設定し、自己有用感を高める。 ③ 人権に関する作文や標語、四コママンガを作成し、効果的に掲示することにより、人権尊重の精神を涵養する。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 94.3%で、前年度の 93.6%を上回っており、高い達成状況である。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 月に一度、「泉が丘小学校の一日」を各学級で確認し、振り返る日設けることで、秩序のある中で充実した生活ができるようにする。 ② 生活当番による児童の実態に合わせた「生活目標」の焦点化と、目標達成に向けた指導を行うとともに、帰りの会等で振り返りを行い、達成状況を確認する。 ③ 決まりやマナーを守った行動に対し、児童が互いに認め合う機会や教師の賞賛によって意識付けながら自己指導能力の育成を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.6%で、前年度の 91.0%を若干下回ったものの、引き続き高い達成状況である。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。特に①については、月に1回「泉が丘小学校の一日」を確実に振り返ることができるよう、月末に学校統一で振り返る日を設け、秩序ある中で充実した生活ができるようにする。

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上 地域の肯定的回答 85%以上	① 児童会が主体となって掲示物を作成する等、あいさつの励行に努める。可能であれば中学校と連携を図りながら「あいさつ運動」を展開する。 ② 学級活動や道徳科等の授業を通して、発達の段階に応じてあいさつの意義や心的効果について指導し、校内及び地域の方々への自発的なあいさつの啓発に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.9%、地域の肯定的回答は 92.9%で、それぞれ目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。特に①については、「自分から」あいさつをすることができるよう、引き続きあいさつの励行に努める。また、保護者にも取組を紹介するなどして、啓発を行っていくようにする。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組み、「よく考えた、分かった、できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。 ② 児童が自己肯定感を高められるよう、係や委員会活動などで活躍できる機会を工夫して設けていくとともに、各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛する機会を積極的に設ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.6%であり、前年度の 91.3%を若干下回ったものの、引き続き高い達成状況である。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。係や委員会活動等、児童の主体性を重視した活動やよさを互いに認め合う機会を設けていく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解を促すとともに、社会情勢に合わせて適切な感染防止対策を取り、体調管理に努める。 ② 交通安全、生活安全、災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を通して指導し、自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けさせる。 ③ 学習内容に合わせて栄養教諭や家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 93.8%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。①については、社会情勢に合わせて、新型コロナウイルス感染症に対する対策だけでなく、生活習慣（食事・運動・歯磨き等）も見直していけるように、指導体制を整えたり委員会から呼び掛けたりする。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 「宮・未来キャリア教育」の内容を、学級活動を要とし、外部人材等の活用等も図りながら実践することにより、望ましい勤労観や職業観の醸成を図る。 ② キャリア・パスポートの考え方を基に、学習の様子や活動の振り返りを積み重ねることによって自己理解を深め、将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 ③ 学年の発達段階に応じて、教科横断的な学習を取り入れ、学習内容等について保護者に周知する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.6%で前年度よりやや下回ったが、高い達成状況である。教職員、保護者の肯定的回答は昨年度を上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。めあてを示し、学習に見通しをもたせて取り組ませていくことで努力して達成する実感を積み重ねられるようにする。 端末を活用しながら児童の主体性を活かした活動を奨励していく。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 授業では、英語によるやり取りを中心として展開することによって、児童が英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ② ALTをあらゆる場面で活用し、外国語活動の指導の工夫や生きた英語に触れる機会の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.9%で、昨年度を上回った。 【次年度の方針】 英語に触れる学習環境を整えたり、ALTの活用場面を増やしたりしていく。 外国語に限らず、コミュニケーション力や表現力を高めていく場면을意図的に設けていく。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「宇都宮学」を計画的に実施し、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ② 児童の実態や発達の段階を踏まえ、各教科・領域において地域教育資源や資料等を活用し、地域のよさを理解する。 ③ 各教科や領域で学んだことを通して、児童が宇都宮の良さを実感できるような掲示物の工夫を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.5%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間の「宇都宮学」を通して郷土のよさに気付かせ、愛着をもたせるようにする。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 教職員がICT機器の特性を知り、授業で効果的に活用できるよう、校内研修等で技能向上を図る。 ② GIGAスクール構想一人一台端末の充実に向け、児童がICT機器に慣れ親しみ、学校や家庭で適切に活用することができるよう、授業において積極的に使用する。 ③ 各種年間指導計画に図書の利用を適切に位置付けるとともに、司書と連携を図って計画的な図書資料の充実に努める。 ④ 正しくICT機器を活用し、情報を適切に扱うことができるよう、情報モラル教育を意識した指導に努める。 ⑤ ICT機器を活用した児童の活動の様子を、学校HPや各種便り等で積極的に発信していく。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 86.6%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。ICTを使うと効果的になる場面や活用の仕方を、学年の実態に応じて実践しながら探っていく。 ④については、今年度作成した「使い方のきまり」が定着するよう指導を続ける。 数値指標について、「保護者」ではなく、実際に使っている「児童」が回答した肯定割合から判断するようにしたい。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童(生徒)は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 道徳的価値を実生活の中から捉えられるような道徳の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。【A2再掲】 ② 学習内容や発達の段階に応じて、可能な範囲で高齢者と交流する機会を設け、高齢者に対するいたわりの心や豊富な人生経験への尊敬の心を養う。	【達成状況】 保護者の肯定的回答割合は 94.3%で、前年度の 93.6%を上回り、高い達成状況である。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。道徳の授業や人権教育等を通して、相手を思いやる心、尊重する心を育めるようにする。

	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童（生徒）は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 総合的な学習の時間や理科、社会において、環境や地域、平和などをテーマとして、SDGsとの関連を図りながら身の回りの課題を探究的に解決していくことにより、地域や社会に目を向け、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 ② 児童の実態や発達の段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、地域のよさを理解する。【A9再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的割合は90.4%で、昨年度をやや下回っているが、高い肯定的割合で児童の中に意識付けられている。 【次年度の方針】 各教科や総合的な学習の時間などで環境や平和、地域に関するテーマに取り組んでいくとともに、持続可能な社会を見据えた授業の充実に努める。
	B1 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 児童が能力に応じて進んで運動できるような運動機会の工夫や拡充・日常化に努める。 (外遊びの奨励、運動遊びの紹介、運動委員会主催の集会) ② 各種検定の実施と、検定表、検定内容の地域学校園での見直しや備品の共有等、連携を図った取組を推進する。 ③ 感染症対策で実施できなかった体育的行事や各種検定は、状況に応じて内容や実施方法・時期などを見直し、可能な限り、取り組むよう努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は90.5%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 具体的な取組として、児童の運動する習慣がより身に付くような手立てを考えて整理したい。 ア 児童が扱いやすい物品を整備したり学校園内で共有したりする。 イ 児童に自己の健康に関心をもって運動に取り組んでもらうための工夫をする。(新体力テストの結果の公表、補教運動の紹介) ウ 児童が能力に応じて進んで運動できる運動機会を創出する。(体育授業における課題を選択できる場の設定、検定等の実施、運動委員会主催の集会)
目指す学校の	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒職員の肯定的回答 95%	① 特別支援教育コーディネーターを中心に、職員会議時の児童に関する情報交換等を活用する等、特別な支援が必要な児童の実態や支援の手立てについて共通理解を図り、組織的な支援にあたる。 ② 特別支援学級に加え、通常の学級において特別な支援を必要とする児童についても、個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を行う。	B 【達成状況】 職員の肯定的回答は93.3%で肯定的割合を若干下回ったが、高い達成状況である。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。職員会議等の児童に関する情報交換等を活用し、特別な支援が必要な児童の実態や支援の手立てについて共通理解を図り、必要に応じて適宜ケース会議を設定し迅速かつ組織的な対応ができるようにする。 特別な支援を要する児童についても個別指導計画を作成し、児童の実態に応じた定説な支援を行う。

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答 95%以上	① いじめは絶対に許されないという考えのもと、教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小さいじめ防止基本方針」に基づいた組織的・計画的な取組を推進する。 ② いじめアンケート、教育相談を通して、いじめの早期把握に努めるとともに、被害者の立場に立って継続的にかかわることにより、確実な解消を目指す。 ③ 児童会が主体となって呼びかけやポスター掲示等による「いじめゼロ運動」を展開し、一人一人がいじめに対する正しい判断力や行動力を持つことができるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 98.0%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小さいじめ防止基本方針」に基づいた組織的・計画的な取組を推進する。 いじめの未然防止、早期発見・早期対応のための全児童対象としたいじめの実態調査を年4回実施する。実施後は職員同士で共通理解し、必要に応じてケース会議を設定し、児童への支援方法を相談していく。 児童会が主体となって呼びかけや劇形式の放送による「いじめゼロ運動」を展開し、一人一人がいじめに対する正しい判断力や行動力をもつことができるようにする。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童とともに認め励まし合う学級経営を行っている。」⇒職員の肯定的回答 95%以上	① 本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組み、「よく考えた、分かった、できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。【A5再掲】 ② 児童が自己肯定感を高められるよう、係や委員会活動などで活躍できる機会を工夫して設けていくとともに、各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。【A5再掲】 ③ Q-U等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、学業指導の考えに基づき、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。 ④ 新たな不登校を生まない取組を推進し、スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制やケース会議の充実を図るとともに、児童の心のケアに努める。	【達成状況】 職員より 100%の肯定回答を得ることができた。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組み、「よく考えた、分かった、できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。 児童が自己肯定感を高められるよう、一人一人のよさを発揮できる場や授業、帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。 Q-U等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、学業指導の考えに基づき、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。 新たな不登校を生まない取組を推進するとともに、スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制の充実を図り、児童の心のケアに努める。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒職員の肯定的回答 90%以上	① 日本語指導が必要な児童の実態把握に努め、日本語指導講師との連携を図りながら児童のニーズに応じた適切な支援を行う。 ② 児童指導に関する情報交換の機会を活用し、教職員全体で、日本語指導が必要な児童の実態について共通理解を図り、日本語指導教室以外の生活の場においても組織的な指導体制を構築する。	【達成状況】 職員の肯定的回答は 93.3%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 日本語指導が必要な児童の実態把握に努め、日本語指導講師との連携を図りながら児童のニーズに応じた適切な支援を行う。 日本語指導が必要な児童の実態について、教職員全体で共通理解を図り、日本語指導教室以外の生活の場においても組織的な指導体制を構築する。

A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 奉仕の精神や公德心など情操教育も重視しながら清掃活動の充実を図り、明るくきれいな教育環境の構築を通して心の教育を図る。 ② 本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組み、「よく考えた、分かった、できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。【A 5・A 1 5再掲】 ③ 児童が自己肯定感を高められるよう、係や委員会活動などで活躍できる機会を工夫して設けていくとともに、各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。【A 5・A 1 5再掲】	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 95.6%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 清掃活動の充実を図り、明るくきれいな環境の中、「分かった、できた、よく考えた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。 児童が自己肯定感を高められるよう、一人一人のよさを発揮できる場や授業、帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① 本時のめあて（育成を目指す資質・能力）を明確にし、各教科等における見方・考え方を働かせながら主体的・対話的で深い学びの実現に向け、振り返りを通して児童が達成感を得られるような「分かる授業」の実践に努める。 ② 「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、個別最適な学びと協働的な学びを融合することにより、基礎・基本を確実に習得させるとともに、それらを活用する力を育成する。（引き続き一人一台端末の有効活用を検討する。） ③ 授業公開の充実を図り、研究成果を教職員が伝え合うことで、学校全体の指導力の向上を図っていく。また、成果や課題について相互に意見を交換し合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 97.6%と昨年度を上回り、目標を達成した。 【次年度の方針】 引き続き授業では、本時のめあて、まとめ、振り返りの流れを大切にしながら、自分の考えを表現する力を身に付けさせていく。 端末をただ使うだけではなく、本時のねらいや教科の本質に合わせた活用の仕方を検討していく。 今年度は総合訪問や教科担任制の導入で授業公開が限られたものになってしまったので、次年度は授業公開の充実を図り、教職員が学び合う風土を醸成していく。
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① すべての教職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を自覚しながら協働的に取り組むことによって、学校教育目標の達成を目指す。 ② 教職員の同僚性を大切にし、互いの持ち味や専門性を生かしたチームワークづくりに努める。 ③ 報告・連絡・相談を徹底し、問題の把握と適切な対応に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 97.8%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 各々が担当する公務分掌において、質の向上を目指すとともに、個々の専門性を生かしながら連携・協力をさらに深め、業務が円滑化に努めていく。 事務職員、司書・栄養教諭、少人数学級・専科教員、スクールカウンセラー等と連携を密にした教育環境整備や児童支援を行う。 職員全員が、児童指導・健康管理等において、速やかに管理職への伝達が行えるよう、話しやすい環境づくりに努める。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 今年度導入した毎週金曜日の短縮日課の効果を検証しながら、教職員一人一人が、ワークライフバランスの重要性を考え、業務の効率化に努めるとともに、休暇等を取得しやすい勤務環境を構築する。 ② ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、日報の電子掲示、学校日誌の入力軽減、週案の電子化、ペーパーレス化等の取り組みを図りながら、業務の効率化を図る。 ③ 教員の負担軽減に向け、各種行事や活動について、学年主任会や打ち合わせによる合意形成を図った上で、改善や見直しを行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 68.9%で、昨年度を 14.8 ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度は全学年が毎日 14:20 までには下校できるよう日課を変更することで、教材研究を充実させ、児童と向き合う時間の確保及び授業内容の質の向上を図っていく。 「さくら連絡網」や校内電子掲示板を積極的に活用することで、ペーパーレス化を推進し、事務に費やす時間の短縮化を図っていく。 ポイント下落の最大の要因は、職員数の不足や疾病による突然の補教での空き時間の消滅による負担増が考えられる。今後も業務の精選と効率化を図り、緊急時の対応について共通理解を持つことで、教職員が気持ちよく連携・協力できる勤務環境づくりに努めていく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 感染症拡大防止の対策を講じながら、引き続き<u>泉が丘地域学校園教育ビジョンに基づき、児童の人間関係構築力の育成を重点として小中一貫教育を実践する。</u> ② <u>各校の効率的な学校運営を支援するため、学校一人配置職員の連携を密にし、学校園で一貫した事務室運営や保健指導、食育等の取組を推進する。</u> ③ <u>小中合同の授業力向上プロジェクトや児童生徒指導強化連絡会の充実を図り、学校園として学習面や児童生徒指導面での向上を図る。</u> ④ <u>越戸川清掃や乗り入れ授業等、小中が連携して行っている教育活動の様子を学校HPや各種便り等を通じて周知する。</u>	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.3%で、昨年度を 1.5 ポイント上回った 【次年度の方針】 引き続き小中が連携・協力し、「学び・共に行動し・鍛える」教育の実践に努めていく。 一人配置職員の連携を密にし、コロナ禍においても実践可能な教育活動を計画・実践していく。 泉が丘中、今泉小の全職員が参集する教科研究会を年 2 回行い、共通した目標に向けての授業実践をすることで授業力向上を図っていく。また、児童生徒指導主任を中心とした強化連絡会を年 3 回行うことで、児童生徒指導を地域ぐるみで進めていく。 宮っ子チャレンジでの中学生受け入れ、合同越戸川清掃、乗り入れ授業の様子を、校内放送、学校HP等を通じて積極的に情報発信し、「小中一貫教育」の取り組みへの理解を高めていく。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 児童の実態や発達の段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、地域のよさを理解する。【A9・A12再掲】 ② 地域から学校支援ボランティアを募集し、地域との協働体制の充実を図るとともに、地域の人々の協力に対して活動の様子を校内掲示やHP、学校だより等で広く周知し、振り返りの場を設け、礼状を書くなど感謝の気持ちをもたせる。	【達成状況】 教職員は 97.8%、保護者は 90.3%、地域住民は 100%、児童生徒は 91.3%となりすべての対象で目標を達成した。 【次年度の方針】 2年生生活科の町たんけん、小中合同越戸川清掃、3～5学年越戸川清掃等、地域の教育資源等の活用を積極に行うことで、地域の様子を理解するとともに、地域の教育資源を活用していく。 読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボランティア、学校支援ボランティアによる読書や教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒地域の肯定的回答 85%以上	① 地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、コロナ禍において実施可能な方法を模索し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ② 地域から学校支援ボランティアを募集し、地域との協働体制の充実を図るとともに、地域の人々の協力に対して活動の様子を校内掲示やHP、学校だより等で広く周知し、振り返りの場を設け、礼状を書くなど感謝の気持ちをもたせる。【A22再掲】	【達成状況】 100%の肯定的回答を得ることができた。 【次年度の方針】 地域協議会や民児協関係者との情報交換会で授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら地域との連携をさらに高めていく。 読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボランティア、学校支援ボランティアによる読書や教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」⇒地域の肯定的回答 85%以上	① 校内の施設、設備及び校庭の遊具等について定期的な安全点検を徹底し、危険箇所については迅速な対応に努める。 ② 危機管理マニュアルを全体で確認し、避難訓練や引き渡し訓練等を通して不測の事態への対応に備える。 ③ 新型コロナウイルス感染症をはじめ、対策のための校内環境整備や自発的な予防に向けた啓発に努める。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答は 100%で、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。③については、社会情勢に合わせて、校内の環境を整備したり行事等の実施方法を検討したりする。

A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 教職員が ICT 機器の特性を知り、授業で効果的に活用できるよう、校内研修等で技能向上を図る。【A10 再掲】 ② G I G A スクール構想 1 人一台端末の充実に向け、児童が ICT 機器に慣れ親しみ、学校や家庭で適切に活用することができるよう、授業において積極的に使用する。【A10 再掲】 ③ 各種年間指導計画に図書の利用を適切に位置付けるとともに、司書と連携を図って計画的な図書資料の充実に努める。【A10 再掲】 ④ 正しく ICT 機器を活用し、情報を適切に扱うことができるよう、情報モラル教育を意識した指導に努める。 【A10 再掲】 ⑤ ICT 機器を活用した児童の活動の様子を、学校 H P や各種便り等で積極的に発信していく。【A10 再掲】	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 86.6%で、目標の 90%には届かなかったが、概ね高い達成状況である。 【次年度の方針】 具体的な取組として、ICT 機器や図書の「整備」に関連する取組に変更して実践していきたい。 ア 学年に応じて学習しやすい環境となるように教室の備品を整備する。 イ 端末の修理対応を迅速に行う。 ウ 有効な共有物品を教職員に案内して積極的に活用する。 数値指標について、「保護者」ではなく、実際に使っている「児童」が回答した肯定割合から判断するようにしたい
B 2 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 学校ガイドブックや学校だより、学校 H P 等により情報発信の充実を図るとともに、家庭との連携を深める。 ② 地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、コロナ禍において実施可能な方法を模索し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。【A23 再掲】 ③ 新型コロナウイルス感染症対策を十分行った上で、授業参観を分散型から通常の形態に戻す等、可能な限り保護者や地域住民へ積極的に学校を公開し、地域とともにある学校を目指す。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 91.6%で昨年度を 2.8 ポイント上回った。また、教職員と地域住民の肯定的回答は 100%であった。 【次年度の方針】 「さくら連絡網」では連絡事項の速やかな伝達、「学校 H P」では学校や学年での児童の活動の样子の伝達と、2 つのツールを有効活用しながら情報の発信を工夫していく。 地域協議会や民児協関係者との情報交換会で授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら地域との連携をさらに高めていく。 年間 5 回の授業参観を行うことで学校での教育の様子を保護者・地域に公開していく。

本校の特色・課題等	B3 学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用し、豊かな教育活動を推進している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用しながら、豊かな教育活動を推進している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童の実態や発達の段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、地域のよさを理解する。【A9・A12・A22 再掲】 ② 生活科や総合的な学習の時間及び花壇や農園の整備等、地域や保護者から構成される学校支援ボランティアを積極的に活用しながら、学習活動や学習環境の充実を図る。 ③ 地域から学校支援ボランティアを募集し、地域との協働体制の充実を図るとともに、地域の人々の協力に対して活動の様子を校内掲示やホームページ、学校だより等で広く周知し、振り返りの場を設け、礼状を書くなど感謝の気持ちをもちさせる。【A22・A23 再掲】	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 90.8%で、前年度を 1.0 ポイント上回った。また、教職員の肯定的回答は 97.8%、地域住民の肯定的回答は 100%であった。 【次年度の方針】 2 年生生活科の町たんけん、小中合同越戸川清掃、3～5 学年越戸川清掃等、地域の教育資源等の活用を積極に行うことで、地域の様子を理解するとともに、地域の教育資源を活用していく。 2 年生のさつまいもの苗植え、5・6 年生の園芸委員による星型花壇での花植え等、学校支援ボランティアとの協働作業により、教育効果を高めていく。 読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボランティア、学校支援ボランティアによる読書や教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。
------------------	--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

アンケートの結果、ほぼ全ての項目で数値目標を上回っており、新型コロナウイルス感染症対策のため、制限がある中で取組もあったが、各項目において工夫して実践した取組が有効に機能した結果であると考えられる。

【学校運営】

A21・A22・A23 の達成状況については、おおむね良好な結果が得られた。

○A21「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取り組みを行っている」では、保護者の肯定的回答は、83.6%で 0.1 ポイント上昇・教職員は、1.5 ポイント上昇・児童は 6.2 ポイント上昇した。地域住民は 100%で昨年と同様値。今年度は、昨年度同様、越戸川清掃に加え小学校校庭南側の落ち葉拾い（小6・中1 交流）や宮っこチャレンジ（中2 来校 20 名の実習）、小中合同会議（オンライン）等の活動を行い、コロナ禍においても実際に活動したことへの評価が数値に表れたと考えられる。今後は保護者に対して、学校HPを中心に活動の様子をさらに分かりやすく周知するとともに、個人懇談や学級懇談会等で情報提供を積極的に行うことで、理解や協力を求めている。また、さくらメールを活用しての情報提供についても、学校HPとの併用を考慮しながら検討・実践を進めていきたい。

A22・A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」では、保護者の肯定的回答が 90.3%で 0.8 ポイント上昇した。教職員は、0.2 ポイント下降・児童生徒は 0.4 ポイント下降した。

今年度は、読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボランティアの活動が再開された。また、学校支援ボランティアでは 56 名の登録を受け、「2 年生の町たんけん」、「2 年生のさつまいもの苗植え」、「5 年のミシン作業」、「園芸委員会の星型花壇の花植え」、「ベルマーク仕分け」、「夏休みの作品仕分け」等の活動を行うことができた。これらのことから、ボランティア活動に参加された保護者を含め、活動実績を理解した保護者が肯定的回答率の上昇に関与したことがうかがえる。しかし、ボランティア活動に関わりの薄かった学年等の教職員や児童にとっては、活動の機会に触れることができず、肯定的回答につながらなかったのではないかと推測する。

今後、見守り隊の方や交通指導員の方等との感謝の会等、交流する場を充実させることによって、地域の方との関わりについて再認識していくことが大切になってくると考える。

A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」に関しては、回答対象者が教職員のみとなっている。今年度は、68.9%で 14.8 ポイント下降した。業界全体で発生している人不足により、年間を通して、産休・育休等に伴う代替職員の確保ができずに、個々の業務量の増加が数値に表れたと考えられる。

令和5 年度は、適正な職員数のもと、勤務状況の改善を図ることで、教職員の肯定的回答率の上昇に結びつけていきたい。

【学習指導】

A1「児童は、進んで学習に取り組んでいる」では、児童の肯定的回答が目標数値を大きく上回り、保護者の肯定的回答も上昇した。実際に学習している児童自身が前向きであると評価している。また、今年度は授業参観や自由参観を実施し、保護者が学校及び児童の様子を実際に目にする機会が多数あった。その結果として肯定的回答を高く得られたことは、本校の児童の学習に取り組む態度が非常に良好な状況であると捉える。一方、家庭学習の習慣化には個人差がある。家庭学習の在り方を見直し改善を図り、学校と家庭が一体となって児童が学習に向かう風土づくりに努めていけるようにする。

A18「教職員は分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」の児童の肯定的回答は97.6%と非常に良好な結果であった。今年度は、ICTを有効に活用した授業改善に取り組み、日々、実践・改善を繰り返してきた。また、OJTを機能させ、実践を通して若手の授業力向上を図ってきた。次年度も教職員同士が学び合う機会を充実させ、児童の学力向上が図れるよう研究と修養に努めていく。

【生活指導・児童生徒指導】

A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」A15「教職員は不登校を生まない学級経営を行っている」では、児童の肯定的回答は昨年度より上昇している。引き続き、定期的なアンケートの実施や普段の児童観察等から、いじめを積極的に認知し解消に努める。また、担任を中心に積極的に居心地のよい学級づくりを行い、いじめを許さない学校・学級風土の醸成に力を入れていく。

【健康（体力・保健・食・安全）】

A6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」では、全体的肯定的回答は上昇しているが、児童の肯定的回答は昨年度よりもやや減少した。児童に自己の健康や安全に関心をもって生活してもらえるような工夫をしていきたい。社会情勢に合わせて、新型コロナウイルス感染症対策だけでなく、生活習慣にも目を向けさせていく必要がある。

A10・A25「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」では、全体的肯定的回答は上昇しているが、児童の肯定的回答は昨年度よりもやや減少した。GIGAスクール構想一人一台端末が導入されてから数年が経ち、「とにかく積極的に活用する」段階から「より効果的に活用する」段階へと入ってきており、活用場面が精選されてきたためではないかと考えられる。引き続きICT機器や図書等の整備を進めつつ、実践しながらより効果的な活用の仕方を探っていきたい。

B1「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」では、児童の肯定的回答は昨年度と比べて微増であった。児童が自己の体や健康のことを考えて適度に運動に取り組む習慣が身に付くよう工夫して指導していきたい。

7 学校関係者評価

子供たちはとても素直で元気があり、学校全体がよい雰囲気である。ボランティアで来校すると、積極的に声をかけたり質問したりしてくれて、とても明るい印象である。

上級生が下級生の面倒をよくみている。幼保小連携行事を実施した際、園児に対して優しくリードしている姿も見られた。横だけでなく縦のつながりやふれあいは、思いやりの心を育むなど児童によい影響を与えるので今後も機会を充実させてほしい。

読み聞かせボランティア、ICC文庫、学校支援ボランティアを学校教育活動に有効に活用しており、地域の人材を積極的に活用しながら、泉が丘小らしい教育活動を展開している。今後更に連携が図れるとよい。

全ての教職員がいじめ対策に熱心に取り組んでいると回答しているが、地域や保護者は、学校内でどのように取り組んでいるかがよくわからない。取組について見える化して共有できるとよい。

下校時の見守り等であいさつが返ってこないことが多い。また、児童同士があいさつをしている様子が見られない。学校関係者に対しては警戒せず元気にあいさつをしてほしい。気軽にあいさつを交わせる風土づくりができるとよい。

運動嫌いの子が体を動かしたくなるような工夫が必要である。逆上がり、縄跳び等できなくてもあたりまという考え方はなく、努力しようとする姿勢を育てていけるとよい。

教職員が遅くまで仕事をしている状況がある。朝早くからの激務の上、残業過多では体調や気力の低下が懸念される。働き方改革には積極的に取り組んでほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

保護者の肯定的回答は、2項目以外すべての項目で市内小学校の平均を上回った。下回った2項目の市との差は、A2「児童生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」は0.3ポイント、A24「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」は1.1ポイントであり、大きな差はなく、市と同程度であった。地域住民の肯定的回答は、A4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」以外の項目で市の平均を上回った。

本校の昨年度の保護者・地域住民の肯定的回答と比較すると、大きく上下した項目はなく同程度であった。ただし、地域住民の回答においてA4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」が、7.1ポイント下回った。

市との比較、昨年度の本校との比較の両方において下回っているA4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」については、次年度、力を入れて取り組む。地域住民からは、「下校時の見守り等であいさつが返ってこないことが多い」、「児童同士があいさつをしている様子が見られない」という意見をいただいている。マスク着用で表情が見とれない昨今、今まで以上に明るい声でのあいさつは人と人をつなぐ上で欠かせないものであると考える。次年度も、校内であいさつの活性化を図る取組を実施すると共に、ボランティア等でお世話になる地域の方とのふれあいを充実させ、「まず、あいさつ」が習慣化できるようにしたい。今年度予定していたが実施できなかった地域学校園でのあいさつ運動も次年度は3校で連携し、実施できるよう計画的に進めたい。

昨年度の学校マネジメントの「まとめと次年度へ向けて」において、保護者や学校支援ボランティアを巻き込んだ、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開を挙げている。今年度は、コロナ禍前に実践していた読み聞かせボランティアやI C C文庫ボランティアを再開することができた。また、56名の学校支援ボランティアに、年間を通して学校の安全安心な環境づくり、授業への参画、教職員業務補助等、様々な教育活動に関わっていただいた。本校独自の評価項目であるB3「学校は、地域の自然や環境、人材をできる限り活用しながら、豊かな教育活動を推進している」に対する地域住民の肯定的回答は100%であり、地域と学校が一体となって子供たちのために教育活動を展開したことが評価されたと捉えている。次年度も地域人材を本校のよりよい教育活動に有効に活用することを重視していく。また、地域の自然や環境を生かした教育活動として、中学校と合同実施の越戸川清掃や1年生の生活科の中央公園における遊び、2年生の生活科での町探検、3年生のスーパーマーケット見学等を実施しているが、地域の特性を広く把握し、本校ならではの教育活動を更に模索していきたい。

学校関係者から本校の教職員の残業についての心配の声があった。また、A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」に対する教職員の肯定的回答は、目標数値である80%を大きく下回る68.9%であり、昨年度より14.8ポイント下降した。今年度は、金曜日の日課を変更したり、働き方改革に関するワークショップを教職員全員で実施し、有効かつ実効しやすいものから取り組んだりしたが、人員不足から業務量の増加もあり、業務の効率化を実感できる状況には至らなかった。次年度は、日課を更に見直し、放課後の時間をしっかりと確保できるようにしたい。教職員が、心身ともに健康で、いきいきとやりがいを持ちながら、児童との関わり、教材研究や事務処理等にとしっかりと取り組むことができる環境を整備することにより、本校教育の質の更なる向上を図れるようにする。